

活動状況報告（8月）

スポーツコース 5期生 太田 ゆき菜

渡米してから早いもので3週間が経ちました。留学先のイリノイ大学では授業やアダプティブスポーツ、障がいを持った学生のリハビリなど多くの活動がスタートし、忙しくも充実した日々を過ごしています。毎日貴重な経験ができてるのは、みらチャレ5期生として暖かいサポートをいただけているからです。本当にありがとうございます。今回は8月26日から28日までグリーンベイで開催されたWorld Para Ice hockey 2022 Women's World Challengeの視察に行ってきましたので、大会の様子について詳しくお伝えしたいと思います。

2030年の冬季パラリンピックの公式種目を目指す女子パラアイスホッケーにとってこの世界大会は、第一歩としてとても重要であり、歴史的な大会として位置づけられていました。女子の世界大会を開催出来たこと、そしてここから進んで行こうというアットホームで会場全体が同じ方向を向き一体となっている感じがあり、暖かい空気の流れる空間でした。実際に会場を訪れ、その空気感を感じ、たくさんの方々にお会いしたことで、今後につながる繋がりを作れたことに感謝です。

今回は女子の大会だけあって、ラインズマン、レフリーも全員女性、チームのスタッフも女性が多く、赤ちゃんを連れて仕事中は別のスタッフが面倒をみたり。色んな活躍の仕方、働き方があっていいなと思いました！

運営スタッフ、ボランティアの方たちもとてもフレンドリー。毎度声を掛けてくれて、忙しい中でも本人たちもとても楽しんでいる様子が素敵でした。彼女らが今大会の雰囲気をもくもくしていたことは間違いないです。大会運営においてボランティアの方々自身も楽しみながら運営サポートをできることの重要性を感じました。

今回はアメリカ、カナダ、イギリスの他に、自国だけではチームが組めない国々の選手が集まって構成された”Team world”の4チームによって女王が争われました。単独でチームを組めるまで普及に取り組んできたイギリスチームのチャレンジ、即席だけどチームワークよくプレーしていたTeam world、どちらも可能性に溢れていました。また、日本人選手1名がTeam worldで出場し、アシスタントキャプテンを務めるなど、活躍している姿を現地で応援することができ嬉しく思います。アメリカ、カナダの2チームはやはり別格で、スケーティング技術やシュートまでの形の作り方など両チームの技術は本当に素晴らしいものでした。そしてやはり基礎であるエッジコントロール、スケーティングがしっかりできるかが大切だと感じました。

今回パラ公式種目化に向けて日本、アジアでの発展が強く望まれていることを改めて痛感しました。そして何事も実際に足を運び、目でみて直接話し、感じ、繋がりを作っていくことは大切なことだと感じました。まだまだ発展途上であり、世界でも特に日本にとってはこれからの種目ではありますが、アメリカ・カナダチームも世界での発展に向けて積極的な情報共有をはじめ、かなり協力的に活動してくれています。今後日本の女子パラアイスホッケーの発展に貢献できるよう、後半に行くカナダでは、プレースキルやクラス分けの勉強など積極的に活動したいと考えています。今回このような機会を得るためにご協力下さいました皆様、本当にありがとうございました。

